

師匠と弟子の物語

かすがいばいこう
春日井梅光

「師匠の芸を継いで、新たな梅光節を確立したい」

文・おさだ衛



かすがい・ばいこう 本名・西崎静雄。石川県羽咋郡富来町の出身。幼少からの浪曲ずきで17歳で上京。昭和38年、先代・春日井梅鶯に入門。翌39年に初舞台、『越後獅子祭り』を読んだ。レコード歌手としても実績がある。十八番は『赤城の子守唄』『天野屋利兵衛』など。平成6年度・芸術祭賞受賞の実力派。上の写真は昭和43年4月、福岡県吉井町の巡業で。左から三遊亭圓弥、一龍斎貞花(現・貞丈)、先代・梅鶯、曲師の華井美智子、一番みぎが24歳の梅光。

弟子と師匠は親子以上の強いキズナで結ばれている。こよなく崇拝する先代・梅鶯を語るときの梅光は恋人の思入れをたどるように、なつかしく楽しそうに口を開き始めた。

「師匠の芸を継承して、これが梅光節だという作品を作りたいですね」

梅光は梅鶯が晩年に取った最後の弟子だ。死去するまでの12年間をつかえ、梅鶯も梅光に愛を注いだ。

「師匠のためなら死んでもいい。自分の命にかけて守りたいと心底おもっていましたね」

梅光が浪曲界入りした昭和38年ころでも浪曲はすでに斜陽だったのだが、「師匠の芸に惚れたんです。声、節まわしともに素晴らしかった。腹の底から湧き出る発声で息が長い。声は絞って張り上げて鼻に抜くんです。」



先代・春日井梅鶯はいおう。昭和49年没、69歳。昭和の初め『赤城の子守唄』のヒットで全国的な人気者になった一代の英雄。今もカセットテープが売れている名人。「師匠は斗酒をも辞さない酒好きでした。飲まない時は無口でホトケさまのような方でした。」

低音がよく響きました。低い調子でうなって鼻に抜くんです。するとそれほど高低の差はなくても、とても高く聞こえるんですね」

師匠の話をするとき、普段は無口な梅光師は饒舌になる。

「鼻を使えと言われました。鼻に抜ける声が大それた教えられました。師匠は、いわゆる獅子っ鼻で小鼻が堅くなっていましたよ」

梅鶯は浪曲のあとファンサービスで歌謡曲を歌った。

「蝶ネクタイで派手な柄のタキシードで歌うんです。貫禄十分、洋服も似合いです。巡業中は洋服で、それはダンスででした。歌は梅鶯節をアレンジした独特なオリジナルでした」

「ポツポツポツポツ……」と続けて「ポツポツあるのはタコの足」としめて、どこの土地でも大受けだったそう

だ。「浪曲や歌が人を慰めたり励ましたり泣かせたりできるんだ、と師匠の舞台で実感しました」

師匠の存在を片時も忘れない。「10年間、後見として舞台の袖で師匠の芸に触れて、芸は耳や目や肌で吸収しています。気持ちや心も先代のよいところを、一か所でも受け継ぎたいと思います」

梅光師が弟子を取ったのは2年前。

愛弟子・春日井あかりは順調に、たくましく成長している。

「あかりだけでなく浪曲を知らない若い人たちに、例えば梅鶯節の特徴である長い愁嘆(しゅうたん)などが受け入れられるか心配です。しかし、あかりは勉強家で稽古熱心ですので、このむずかしい梅鶯節を受け継いでいけると思っています。彼女は、しつこいほどに質問してきて往生しています、ははは」

あかりのためにと梅光師は親子会を



昭和42年、三重県長島温泉の公演後の楽屋。後列ひだりは伊丹秀敏、先代・梅鶯、葵わか葉。前列いちばん右は真山一郎。「師匠は台本がないと舞台上がれないので、台本を自分の命として大事にしています」

さかんに行なっている。

7月10日(金)に東京は中野の「なかの芸能小劇場」で「第5回梅光・あかり親子会」を開く。この会は浪曲のほかに、浪曲初心者のために基本的な疑問に答えるコーナーを設けている。あかりは新ネタをおろし、梅光師はこれまでのネタをふくらませて演じ見所が多い催しになっている。

あかりは師・梅光を、「師匠は細かいことをいわず私が出るまで待つという、おらかな方でありがたいです。もちろん、この世界の上下関係の厳しさや、こ一番という時にはきつちり締めますけど。」



「私は不器用で欲がない。一つのネタを仕上げたのに何年もかかるんです。今後は三味線の弟子も育てたいですねえ」

やればやるほど浪曲は面白く奥ふかいですね。若い人にはまず聞いてもらうこと。かならずスゴイ芸だと感嘆してもらえます。及ばずながら師匠について、浪曲をすこしでも普及したいと思っています」と、弁が立つ孝行娘だ。

これに答えて梅光は、「なんだあれはと後ろ指をさされないように修行させます。来年1月には、年明けの披露をします。一本立ちさせますので、あかりをどうぞよろしく」弟子の育成、自身の芸の確立と、大言壮語はしない梅光師だが胸に秘めた闘志は太陽のように燃えさかっている。



弟子・あかりと。「教えていて教えられませんが、私自身が不安定なのに、そのうえ弟子を仕込むのは大変です。あかりの言動には刺激を受けていますよ」

浪曲... これほどすばらしい芸は他にはないと
40
52
思います。

浪曲家の皆さん... 頑張ってください。
多くのファンを楽しませて下さい。

葛飾区・坂本豊吉